

修士論文概要

国外在住スーダン人の生活環境構築における課題 — 国外避難者と近親者のライフストーリーを中心に —

Challenges in building life environments for Sudanese residing abroad:
A focus on life stories of the cross-border displaced persons and their families

岩吹 綾子

研究の目的と方法

本論文の目的は、非自発的理由でスーダンから国外に移動した人々が、新たな国での生活に関して、生計手段の確立やホストコミュニティとの関係性構築において、どのような選択肢や機会を見出し、自身の社会的、個人的環境をどのように築き上げ生活しているのか、どのような課題に直面しているのか、その一端を明らかにすることである。

スーダンは長年にわたり政治的に不安定な状態にあり、2023年4月に即応支援部隊(Rapid Support Force, RSF)と国軍(Sudanese Armed Force, SAF)による内戦(スーダン内戦)が始まった。以後、国際移動するスーダン人が急増し、新たな国での生活環境構築に際して、多様な困難に直面している。本論文の焦点は、スーダン内戦以降、非自発的に国際移動にいたったが、難民申請を希望しない人々である。これらの人々は、難民や庇護希望者のように公式なステータスを持たず、不可視の移民として政策や援助、統計の枠外に置かれ、見過ごされやすいとされている。

研究の方法は、文献研究と事例研究を用いた。文献研究では、国際機関の報告書、強制移動に関する先行研究を中心に、スーダンの国外避難者をめぐる状況を特徴づけた。事例研究では、オンライン質問票調査とオンラインインタビューを用いた実態調査を実施した。本調査は日本福祉大学大学院「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会において、承認を得た上で実施した。

実態調査は、筆者がアクセス可能なスーダン国外在住者を対象とした。対象者は、スーダンで生活歴があり、スーダン国外に居住している者で、スーダン国籍保持者または過去に保持していた者とした。質問票調査、インタビューともに、現在の居住国での生活環境、日常生活、仕事、今後の展望、今までの人生で印象に残っていることや思い入れのあることなどを質問した。加えて、これまでの経歴、国際移動にいたるまでの経緯、実際の移動の内容についての語りを得た。

文献研究を踏まえた上で、8名のライフストーリーを通じて、彼らが国際移動先でどのような選択肢を得て、その中からどのように選択し、生活環境を構築しているのか、また、その過程の中でどのような困難や課題があり、どのような対策が望まれるのかを考察した。

論文の構成

第1章 序論

第1節 研究の背景と問題の所在

第2節 研究の目的

第3節 研究の方法

第4節 論文の構成

第2章 紛争等による人の国際移動と開発援助の動向

第1節 人の国際移動における分類

第2節 世界における紛争等による人の国際移動と開発援助

第3節 スーダンにおける紛争等による人の国際移動

第3章 スーダンの概要と2024年現在までの情勢

第1節 基礎情報

第2節 経済

第3節 教育

第4節 2018年から2024年までの情勢

第4章 受け入れ国の政策と支援体制

第1節 アラブ首長国連邦

第2節 日本

第5章 事例研究：スーダン国外在住者を取り巻く生活環境の実態と課題

第1節 調査概要

第2節 調査結果

第6章 全体考察

第1節 スーダン人国外避難者の特徴

第2節 国外避難者と2次的当事者の文脈における生活環境構築の現状と課題

第3節 国際社会による支援の限界と課題

第7章 結論

第1節 結論

第2節 残された課題と今後の展望

論文の概要

本論文は、7つの章から構成される。第1章では、研究の概要を述べた。1956年の独立以降のスーダンにおける情勢と、移民、避難民が急増した背景と問題の所在、研究の目的、研究の方法、論文の構成を述べた。

第2章では、紛争等による人の国際移動と開発援助の世界的動向、その中でスーダンの紛争等による人の国際移動がどう位置づけられるかについて整理した。はじめに、人の国際移動に関する用語の定義づけを行い、本論文が焦点を置く国外避難者を定義した。続いて、世界の紛争等による人の国際移動の歴史や制度、それに対する開発援助について概観した。さらに、紛争等による人の国際移動におけるスーダンの特徴を整理した。本章の文献研究により、スーダンおよび周辺国の情勢不安を受けて、スーダン内戦前から双方向に人の国際移動が繰り返されてきたこと、パスポートとビザは国際移動する際の制約になり得ることが明らかになった。

第3章では、スーダンの概要を整理した。スーダンにおける気候、交通網、都市部と村落部の格差、生活習慣病、経済、教育、2018年から2024年現在までの情勢について整理し、スーダンの人々が国際移動を選択した背景を整理した。本章の文献研究から、スーダンが地理的な要衝に位置していること、世界的に見て極めて深刻な経済状況にあること、情勢不安が教育機会を制限していること、スーダンは一時民主化への道を歩み始めたものの、軍事クーデターとスーダン内戦によりその道が断絶している現状、世界的にスーダン危機への注目が低いことが明らかになった。

第4章では、受け入れ国の政策と支援体制を整理した。事例研究の研究協力者が居住するアラブ首長国連邦(United Arab Emirates, UAE)と日本における、地理、文化、言語、宗教、雇用や医療などの生活環境、政治体制、制度、政府開発援助(Official Development Assistance, ODA)、紛争等による人の国際移動に対する支援について整理を行った。

第5章では、事例研究を行った。スーダン内戦後に国際移動した人々における生活環境構築の実態と課題を明らかにするため、2024年11月、オンライン質問票調査とオンラインインタビューによる実態調査を実施した。本論文の対象とする人々は、国際移動を行ったが、定住と言える状況になく、流動的な生活を送っている。そのため、特定側面の課題に絞るのではなく、生活全般にわたる経済的、社会的、文化的な様々な面での工夫や試み、困難などに耳を傾けて調査を行った。質問票は8名から回答があり、インタビューは7名に実施した。研究協力者から得た質問票の回答とインタビューの語り、質問項目に即して、スーダン内戦前の経歴・生活、実際の移動、スーダン内戦後の生活実態、人生観と今後の展望、国外避難者とスーダン内戦により近親者の非自発的国際移動を経験した2次的当事者の心理的側面という要素に分けて整理した。

第6章では、スーダン国外在住者における生活環境構築の課題について、第1章、第2章、第3章、第4章で提示した筆者の論点と第5章の事例研究を踏まえて全体考察を行った。はじめに、スーダン人国外避難者の持つ背景と特徴を考察した。続いて、スー

ダン内戦後に国際移動した人々の視点、2次的当事者の視点、国際社会による支援の限界の視点から考察を行った。実態調査の結果、生活環境の構築には経済基盤や社会的役割としての就労、合法的に滞在するための滞在許可、生活基盤としての住居、家族や近親者との連絡や就職活動を支援するインターネット通信、それらを支える人的ネットワークの存在が不可欠であることが分かった。国外避難者の生活環境構築における課題は、滞在資格、居住環境、言語や文化的隔たり、健康と医療、経済状況、将来設計、雇用、教育、心理面にあることが明らかになった。また、国外避難者が不可視の存在として、統計や支援の外に置かれているため支援を受けられないことも課題であることが示された。

第7章では、第1章で提示した目的に対する結論を述べ、残された課題と今後の展望について記述した。国連機関、支援機関、政府の国外避難者に対する支援策として、住環境、就労機会、教育機会、情報アクセス支援、心理的ケアなど、包括的かつ多面的な支援が有効である可能性が示唆された。

本論文の成果は、世界的に注目度の低いスーダン内戦と、その影響を受けた国外避難者に焦点を当てることで、これまで統計や支援の枠外に置かれてきた人々の生活環境構築における実態と課題の一端を明らかにしたことである。また、直接的な支援が届かない状況下においても、知ろうとする努力や無関心なまま取り残さないようにすることが、スーダン人国外避難者が感じる疎外感や孤立感の軽減につながる可能性を示した点も本論文の成果の一つである。

本論文が、今後の国際開発において、国外避難者が直面する課題を軽減し、より良い生活環境を構築するための一助となることを期待している。